

# 龍谷顕真会会報

## — も く じ —

松山教宗代表世話人挨拶	1 頁
総会・公開講演会報告	2 頁
龍谷顕真会 2024(令和 6)年度活動報告	5 頁
第 1 2 回国内行政視察研修会	8 頁
会員名簿	25 頁
会員活動報告	26 頁
事務局より	27 頁



2025(令和 7)年 10 月 7 日 寿都町役場前にて

## 会報第43号発刊のご挨拶

会員の皆様におかれましては日頃より龍谷顕真会に対しご理解ご協力をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

2025(令和7)年度世話人会にてご推挙、総会にてご承認をいただき代表世話人に就任しました北海道美唄市議会議員松山教宗と申します。あらためて宜しく願い申し上げます。

僭越ながらまずは簡単な自己紹介をさせていただきます。

現在3期目、議会では議会運営委員長を務めております。自坊では父である法王寺住職が約7年前に臨終の一念を迎え、その後住職継職。現在は副住職の弟とともに伝道教化、寺院活動を行っております。当会に入会し10年がたちますが、世話人、一昨年50周年記念事業担当世話人となり現在に至っております。また、コロナ禍や創立50周年により数年間未開催の国内行政視察研修会を昨年10月に開催しました。研修先が北海道でありましたので企画立案を担い11名の参加があり無事に視察研修会を終えました。参加者からは「有意義だった」と反響をいただきとても安心しております。

これからの当会の在り方を考えますと昨年度2024(令和6)年創立50周年を迎えたことは大きな節目だと認識しています。創立50周年を機縁に今後を見据え現状を鑑みますと当会の活性化を図るとともにスケールメリットを活かすことを念頭に置くべきだと考えます。また、議員連盟でもありますので、会員の所属議会や地元のまちにフィードバック活かすことのできる事業や研修を行い、より機能的で充実した議員活動、政策議論や構築、議会運営などに反映ができ、政治力・議員力向上となることを目的とするとともに、当会の強みの一つである経験豊かな先輩会員(元議員)も多く在籍し全国規模の会でもありますので、会員相互の親睦交流や情報交換など研鑽を進めて行きたいと考えております。あわせて、会自体の運営機能の充実・強化を図るべく会員拡大を進めたく思います。

最後に会員は地域で活動する本願寺派僧侶であり、お念仏を旨とする議員(元議員など)として、実社会において2つの視点を持っています。本山本願寺や宗派と現代社会との懸け橋となる豊富な政治・社会経験を有していると理解しております。今後、社会をより見通すべく本質的かつ機能的な資質向上を目指し研鑽し、各会員の経験や実績など蓄積を強みとし、宗門内に活かすべきであるとも考えます。

ここに第43号発刊並びに代表世話人就任のご挨拶と方針の一端を紹介させていただきました。会員の皆様とともに持続可能な当会運営をしていきますので引き続きご指導ご鞭撻いただきますよう何卒宜しく願い申し上げます。

# 2025（令和7）年度 龍谷顕真会 総会・公開講演会 報告書

## 【総会】

1. 日時 2025（令和7）年5月21日（水） 14：00～15：15
2. 会場 伝道本部3階 大会議室
3. 出席者 代表世話人 竺川紹隆  
世話人 松山教宗 山本隆俊  
大前寛乗 藤谷光信  
会員 渡辺倫代 大塚泰雄 谷川正秀  
荒木行也 高原隆則 唯有幸明  
<教区順>  
事務局 中井真人（事務局長）  
渡邊弘文 大下眞史 有馬夏海

## 4. 総会内容

- (1) 報告事項 ①会員動静について
- (2) 審議事項 ①2024（令和6）年度活動報告について  
②2024（令和6）年度歳計決算について  
③役員改選について  
④2025（令和7）年度活動計画について  
④2025（令和7）年度歳計予算について  
⑤その他

## 《開会式》

- (1) 開式の辞
- (2) 勤行『讃仏偈』（調声：大前寛乗 世話人）
- (3) 代表世話人挨拶（竺川紹隆 代表世話人）
- (4) 総長挨拶（園城義孝 総長）

## 《永年勤続表彰式》

勤続15年表彰 ※欠席のため報告

松月よし子（糸島市議会議員 福岡教区志摩組海徳寺前坊守）

勤続10年表彰

松山教宗（美明市議会議員 北海道教区空知南組法王寺住職）

## 《総 会》

- (1) 事務局長挨拶
- (2) 議長選出  
・ 竺川紹隆代表世話人を議長として選出
- (3) 配布資料の確認
- (4) 出欠報告（会員 26 名中 出席者：11 名・委任状 7 名）

## 《議案審議内容》

### (1) 報告事項

#### ①会員の動静について

寿都町議会議員、北海道教区・後志組・願乗寺住職の友山 大信さん、妹背牛町議、北海道教区・空知北組・法忍寺前坊守の渡辺 倫代さんが新たに入会された。

幕別町議・北海道教区・十勝組・顕勝寺住職の芳滝 仁さん、元大島町議・高岡教区・射水組・称念寺住職の花木 肇正さん、元朝地町議・大分教区・岡組・西蓮寺前住職の志賀 信之さんの 3 名がご逝去に伴い退会された。

### (2) 審議事項

#### ①2024（令和 6）年度活動報告

#### ②2024（令和 6）年度歳計決算

上記 2 事項を一括して事務局より説明を行った。

採決の結果、全会一致で可決された。

#### ③役員改選について

事前に開催された世話人会において、世話人の人数は 7 名と決まったことを受け、構成員案を提示。当該案にて了承されたため、世話人の互選により、松山世話人が今年度より代表世話人に就任された。なお、監査については、福岡の荒木さんが退任、四州の岩本さんに就任いただくこととなった。

採決の結果、全会一致で可決された。

#### ③2025（令和 7）年度活動計画

#### ④2025（令和 7）年度歳計予算

上記 2 事項を一括して事務局より説明を行った。

採決の結果、全会一致で可決された。

その他意見はなく、上記審議事項について採決の結果、全会一致で可決

された。

**【公開講演会】**

1. 日 時 2025（令和7）年5月21日（水） 15：30～16：45
2. 会 場 伝道本部3階 大会議室
3. 講 師 李 相 哲 氏（龍谷大学社会学部教授）
4. 講 題 「私の見る第2期トランプ政権と世界  
～日本はどうすればよいか～」
5. 参加者 27名  
(会員11名、一般11名＜同伴者3名、記者2名を含む＞、職員2名、事務局3名)  
オンライン視聴アクセス数194回

**【懇親会】**（17：30～19：00）

1. 会 場 デュシタニ京都『Kati』  
(京都府京都市下京区西洞院通正面上ル西洞院町466  
TEL:075-343-7150)
2. 参加者 15名  
(総長、講演会講師、会員10名、同伴2名、事務局員1名)
3. 会 費 9,000円

以 上

報告者：龍谷顕真会 事務局 有馬夏海

# 2024（令和6）年度 龍谷顕真会 活動報告

## 1. 活動方針

当会の目的を達成するため、次の事業を行う

- (1) 宗門の社会的実践活動への参加に関すること
- (2) 研修会の開催に関すること
- (3) 築地間真会等関係団体との交流提携に関すること
- (4) 会員相互の親睦と連絡に関すること
- (5) 会員増員に関すること

## 2. 活動項目

- (1) 世話人会の開催
- (2) 「結成 50 周年記念式典」、「総会」、「記念公開講演会」の開催
- (3) 宗祖降誕会、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要、御正忌報恩講法要参拝
- (4) 「龍谷顕真会会報」の作成と掲載
- (5) ホームページの運営
- (6) 新規会員の入会奨励

## 3. 活動内容

### (1) 世話人会の開催

<第1回> 日時：2024（令和6）年5月20日（月）

報告事項 2023（令和5）年度活動報告・歳計決算報告について

協議内容 ①会則改定（案）について

②2024（令和6）年度活動計画・歳計予算（素案）について

③結成 50 周年記念式典などについて

<第2回> 日時：2024（令和6）年7月23日（火）記念式典、総会に併せて実施

報告事項 会員動静について

協議内容 ①2023（令和5）年度活動報告・歳計決算報告について

②2024（令和6）年度活動計画・歳計予算（案）について

<第3回> 日時：2024（令和6）年2月4日（火）

協議内容 ①2024（令和6）年度活動中間報告・歳計現況報告について

②2025（令和7）年度活動計画・歳計予算（素案）について

③役員改選について

※その他、必要に応じて開催する

### (2) 「総会」・「結成 50 周年記念式典」の開催

<総会>

日 時：2024（令和6）年7月23日（火）13時

会 場：間法会館3階研修室①

内 容：【報告事項】

## 会員の動静について

### 【審議事項】

- (1) 2023（令和5）年度活動報告、年度歳計決算について
- (2) 2024（令和6）年度活動計画(案)、歳計予算(案)について
- (3) 龍谷顕真会会則の変更について

### <結成50周年記念式典>

- 日 時：14時45分（総会終了後）  
会 場：阿弥陀堂【※ご門主様ご臨席】  
内 容：(1) 勤行 讃仏偈  
(2) 代表世話人挨拶  
(3) 記念撮影

### (3) 記念公開講演会の開催

- 日 時：15時45分頃（記念式典終了後）  
会 場：聞法会館3階 多目的ホール  
講 師：釈 徹宗 氏  
講 題：「現代社会と宗教」

### (4) 宗祖降誕会、千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要、御正忌報恩講法要参拝

### (5) 「龍谷顕真会会報」第40・41・42合併号の作成と掲載

- 内 容：会員活動報告、活動報告、会員動静等  
発 行 日：2025年3月  
発行方法：ホームページにて掲載（これまでの会報も順に掲載する）

### (6) ホームページの運営

### (7) 新規会員の入会奨励（会員及び事務局より入会奨励を行う）

以 上

## 2024(令和6)年度 龍谷顕真会 歳計決算書

### (歳入)

費目	決算額	予算額	対比△減	備考
1 宗派助成金	500,000	500,000	0	
2 会費	124,000	171,000	△ 47,000	1 年会費 115,000 2 過年度分 9,000
3 行事参加費	0	0	0	1 国内研修参加費 0 2 懇親会費 0
4 50周年記念事業費 <small>費目新設以降項番号繰り下げ</small>	1,130,000	1,200,000	△ 70,000	1 参加費 170,000 2 輪袈裟販売料 960,000
5 繰越金	171,206	171,206	0	2023年度より繰越
6 雑収入	235,111	152,794	82,317	預金利息・協賛金(47口)
<b>歳入合計</b>	<b>2,160,317</b>	<b>2,195,000</b>	<b>△ 34,683</b>	

### (歳出)

目	決算額	予算額	対比※超過	備考
1 事業費	461,495	550,000	88,505	会議等開催経費 461,495
2 50周年記念事業費 <small>費目新設以降項番号繰り下げ</small>	1,350,152	1,355,800	5,648	1 講演会費 189,200 2 懇親会費 159,990 3 輪袈裟調製費 856,680 4 事務費 144,282
3 慶弔費	23,080	20,000	※ 3,080	慶弔関係費(弔電・御香儀 2件)
4 事務費	34,989	60,000	25,011	通信費等 34,989
5 ホームページ関係費	87,450	90,000	2,550	ホームページ管理・更新費
6 予備費	0	119,200	119,200	
<b>歳出合計</b>	<b>1,957,166</b>	<b>2,195,000</b>	<b>237,834</b>	

歳入合計	2,160,317
歳出合計	1,957,166
<b>差引額</b>	<b>203,151</b>

※差引余剰金は2025(令和7)年度へ繰り越し

## 龍谷顕真会「第12回国内研修会」要項

1. 目的 会員相互の親睦と教養の向上を目的とする。
2. 期 日 2025(令和7)年 10月6日(月)～8日(水)(2泊3日)
3. 開催地 北海道教区【本願寺小樽別院参拝、寿都町視察等】
4. 募集対象 龍谷顕真会員、元会員、ご家族等
5. 内 容 (1)本願寺小樽別院参拝  
(2)寿都町行政視察  
(3)その他
6. 予定参加費 80,000円程度  
※参加者人数等により増減する場合がありますので、ご了承ください。  
※宿泊費、懇親会費、研修会中の交通費・視察・施設入館料や、その他諸費を含む。  
集合：本願寺小樽別院  
解散：新千歳空港

以 上

## 国内研修を終えて

代表世話人 松山 教宗

第12回国内行政視察研修会を2025年10月6日(月)から8日(水)の3日間の日程で参加者11名にて開催しました。国内研修会開催はコロナ禍を挟み昨年度創立50周年記念式典開催などでもありましたので6年ぶりとなりました。

視察研修先は北海道寿都町、参拝先は本願寺小樽別院、他に洞爺湖サミット記念館、白老ウポポイ民芸共生象徴空間などです。

行政視察研修の目的は先進自治体の政策や施策について学び、会員の研鑽や政治活動などまちづくりに活かすべく、また、会員相互の親睦交流なども含め開催しております。

初日は本願寺小樽別院にて集合・参拝し、その後本川輪番よりの沿線をお聞きしました。当別院は1857年幕府より蝦夷地開教が許可された翌年小樽に前身である願乗寺が建立され、1877年本願寺小樽別院と公称。1879年には当別院札幌出張所が札幌別院となるなど幕末から始まる北海道教区の沿線とともにあることを伺いました。



翌朝研修先である北海道寿都町へ移動。寿都町は北海道の西側にある後志地方の日本海側に位置する漁業の盛んな海風が強く人口減少の進むまちですが、当会会員である友山寿都町議会議員のお世話のもと訪問しました。



【寿都町HPより「風太郎風力発電所」】

寿都町では再生可能エネルギーを活用したまちづくりを進めるため指針となる「寿都町CO<sub>2</sub>フリーの循環型地域社会づくりに向けたエネルギービジョン」を策定しています。

これは地の利を活かし町民の有益性を考え、かつ持続可能なまちづくりを進めた施策として、自治体として全国初の風力発電所を設置するなど先進的に取り組まれています。

また、2020年より原子力発電環境整備機構(NUMO)による特定放射性廃棄物最終処分場としての文献調査の応募等も進められ、研修に伺った当時は文献調査の報告書等の意見募集の終了の段階にありました。これは日本のエネルギー政策に関わるもので基礎自治体の取組として、全国的にも非常に大きな話題として取り上げられた案件となりました。

研修内容は今後人口減少や地方自治体の行財政運営など厳しくなる中において、施策として取り組まれてきたこれらの経緯や背景、そして、現状と今後の展望について町長から直接懇切丁寧に伺うことができた貴重な時間となりました。その中、町長自ら先頭に立ち町の生き残りをかけた施策として政策決定をしてきたことなど取り組んでこられたプロセスなども伺うことができました。

そして、原子力発電環境整備機構 (NUMO) による特定放射性廃棄物最終処分場としての文献調査に視点を当て取り組まれてきた真意など理解することができたとともに、政策構築段階において首長(役場)と議会との関係、あわせて町民との関係などがとても重要であり一丸となって歩んでこられたことなど今後活かせるとても有意義な研修会となりました。



その後、洞爺湖温泉にある 2008 年洞爺湖サミット記念館、最終日は白老町にある国立アイヌ民族博物館を有するウポポイ民芸共生象徴空間などを見学し、新千歳空港で解散し帰路の途に就きました。参加者からは「とても有意義な研修会でした」というお声をいただきました。あらためてありがとうございました。以上、報告をさせていただきます。

※研修内容については片山町長のお話をまとめたものをご参照下さい。



龍谷顕真会「第12回国内研修会」行政視察  
寿都町視察 次第

日時：2025（令和7）年10月7日（火）  
9時30分～  
場所：寿都町役場 1階会議室

1 開 会

- 2 講 話 寿都町長 片岡春雄  
～寿都町のまちづくりについて～
- ・風力発電事業の取組
  - ・高レベル放射性廃棄物地層処分事業文献調査応募の経過

3 質疑応答（フリートーク）

4 閉 会

# ～寿都町のまちづくりについて～

## 概要

- ・ 日 時：2025-10-7
- ・ 場 所：寿都町町役場
- ・ 目 的：寿都町への行政視察
- ・ 内 容：寿都町における自治体経営の経験共有（病院再建、風力発電事業、ふるさと納税）と、高レベル放射性廃棄物最終処分に係る文献調査応募の経緯・現状について
- ・ 説明者：片岡春雄 寿都町長

## 講題 1：自治体経営の取り組み共有

### 1-1. 財政危機への対応と病院再建

#### <背景>

- ・ 2001 年前後の三位一体改革により地方財政が急速に悪化。
- ・ 自治体病院が約 4 億円の赤字。財政圧迫の主因に。

#### <方針と実行>

- ・ 首長・特別職給与削減など歳出抑制を断行。
- ・ ピンチをチャンスにの発想で病院の経営改善に着手。
- ・ 病院スタッフの意識・サービス改善を重視し、8 年間での赤字解消を目標設定。

#### <議会对応>

- ・ 全員賛成を目指し、議員個別説得を実施。最終的に合意形成。
- ・ 反対意見には代替案の提示を求め、説明責任を徹底。

### 1-2. 風力発電事業の導入と拡大

#### <初期導入の教訓>

- ・ 中学校屋上の小型風車（モデル事業）：維持費（基本料金等）が収入を上回り赤字に。メーカー説明の鵜呑み防止の必要性を認識。

#### <再チャレンジと拡大>

- ・ 農政資金等を活用し、補助前提で再導入。実質負担を抑えつつ大型化。
- ・ 2003 年：683kW、2007 年：1,980kW、2011 年：増設、2012 年以降も増設。

#### <FIT 制度（再生可能エネルギーの普及を促進するために導入された固定価格買取制度）と採算>

- ・ 2012 年の FIT 改正後、想定単価（15 円）より高い 20 円で売電可能となり採算性が大幅改善。

- ・ 役場・町民の理解も進展し、地域の収益源へ。

#### <施策上の示唆>

- ・ 民間任せ一辺倒ではなく、自治体自らの事業実施も選択肢。
- ・ 再生エネルギーは適地・適規模・実測に基づく採算検証が重要。

### 1-3. ふるさと納税の戦略

#### <方針転換>

- ・ 当初は慎重姿勢だったが、地域振興の核として本格参入へ。
- ・ 加工業者の育成・品質重視でリピーター獲得。

#### <運用>

- ・ 業務委託最小化、役場主導の集約運営で収益最大化。
- ・ ポータルはふるさとチョイス中心に運用の安定性を優先。

#### <成果>

- ・ 年間寄附額：2億→7億→13億→11億→14億→13億→20億。
- ・ ポイント制度終了後も寄附は堅調（本年見込み約15億）。

#### <国の制度への所感>

- ・ 交付金や地方創生の資金配分は成果志向へ転換すべき。
- ・ 交付金の用途制限が当初説明と乖離する事例があり、制度運用の改善を要望。

## 講題2：最終処分場に関する文献調査応募の経緯・現状

### 2-1. 応募の背景と意思決定

#### <背景認識>

- ・ 2018年のブラックアウトでエネルギーと安全保障の重要性を再認識。
- ・ 原発のバックエンド問題は全国民の問題であり、誰もが当事者意識を持つべき。

#### <応募判断の主な理由（4点）>

- 1) エネルギー・安全保障の観点からの責務。
- 2) 立地条件の適性がある可能性（地質等）を検証する価値。
- 3) 交付金の活用による小規模自治体の財政補完。
- 4) 全国的議論に一石を投じる意義。

#### <庁内・地域プロセス>

- ・ エネルギー勉強会の開催、地元関係団体・議会との協議。
- ・ 文献調査への応募可否について町民・団体へ説明を重ねる。
- ・ 当初、反対署名運動などの強い反発あり。情報不足・不安が要因。

- ・ 全体勉強会の時期は慎重に判断し、賛否双方を含むコアメンバーで継続学習。

## 2-2. 対外環境と推進体制

### <国・道の状況>

- ・ 北海道知事は現時点で反対姿勢。国からの意見聴取があっても直ちに同意しない方針。
- ・ 文献調査の全国的広がりが乏しく、原発立地自治体首長の連携強化が課題。

### <国への提案（方式転換）>

- ・ 現行の手挙げ方式から、国の主導・責任明確化へシフトを提案。
- ・ 国策として最終処分を進める以上、国が前面に立ち、首長個人に過度な政治的リスクを負わせない枠組みを要望。

### <政治プロセス>

- ・ 超党派の国会議員による継続的な議論の場の必要性。現状、議員連盟の機能不全を指摘。

## 2-3. 住民合意形成

### <手続きと設計>

- ・ 住民の意見を反映する常設的な枠組み（条例）を整備。国から意見聴取があった場合、条例に基づき判断。

### <コミュニケーション>

- ・ 個別・小規模対話を積み上げ、学習を通じた認識共有を重視。
- ・ メディア報道の影響に留意しつつ、一次情報の提示と丁寧な説明を継続。

## 質疑・意見交換

### 【質問】

質問趣旨：

- ・ 高レベル放射性廃棄物問題で、なぜ文献調査に踏み込んで勝負したのか。
- ・ 住民・議会をどう巻き込み、合意形成したか。

回答：

- ・ 意思決定哲学は「シンプル・ベスト」「良いイメージ」で前進。過度な逡巡は停滞を招く。
- ・ 個人的な大病経験を経て、社会に一つの足跡を残す覚悟が強まった。
- ・ 反発は想定内。賛否双方を交えた勉強会、個別説得、手続きの明確化（条例）で信頼を醸成した。

- ・ 国が前面に立たない限り進みにくい構造的課題を認識した。超党派での後押しが必要と感じる。

## 【感想など】

- ・ 財政健全化や病院再建の実践、風力発電・ふるさと納税の成果への敬意。
- ・ 最終処分はみんなの問題との認識を共有。自分事として考える必要性に同意。
- ・ 自治体内外の勉強会・対話の重要性を再確認。今後の学びの機会拡充を希望。

## 【まとめ】

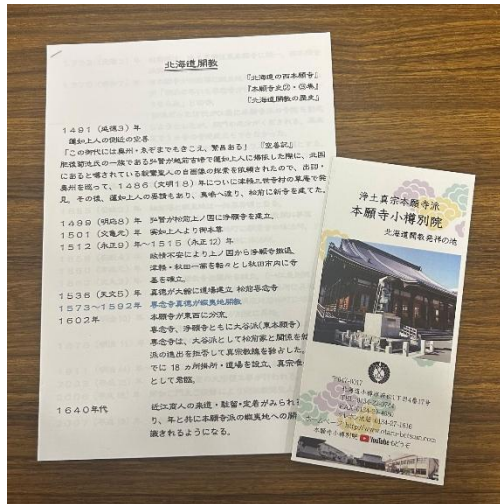
- ・ 交付金の使途制限の変更等、国の制度運用に齟齬が生じた事例を指摘し、成果志向の制度設計への改善を要望していく。
- ・ 役場は総合商社的機能を持ち、限られた資源から収益機会を創出すべきである。
- ・ 文献調査に関する最終判断は、国からの意見聴取の有無・北海道知事の方針を踏まえ、条例に基づいて実施する。
- ・ 住民・関係団体への継続的な説明・勉強機会の提供を継続していく。
- ・ 文献調査を巡る社会的対立の長期化リスクを踏まえ、情報不足からくる不安を解消するため、継続的対話が必要と考える。
- ・ 北海道知事の反対姿勢により手続が停滞する可能性があることが懸念されている。
- ・ メディア報道による誤解の拡散リスクがある。一次情報の提供と迅速なファクトチェックが重要となる。
- ・ 交付金・制度運用の不確実性。資金計画の柔軟性確保が必要。

## <参考（片岡町長からのキーメッセージ）>

- ・ ピンチをチャンスに：危機時こそ構造改革と新規事業の好機。
- ・ シンプル・ベスト：複雑化を避け、核心を捉えて前進。
- ・ みんなの問題：高レベル放射性廃棄物は全国的課題。国の責任と自治体の合意形成の両輪が不可欠。

以 上

## <行政視察における小樽別院・寿都町からの資料>

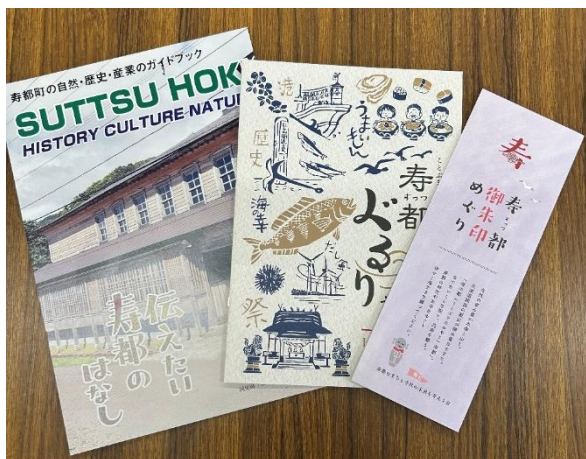
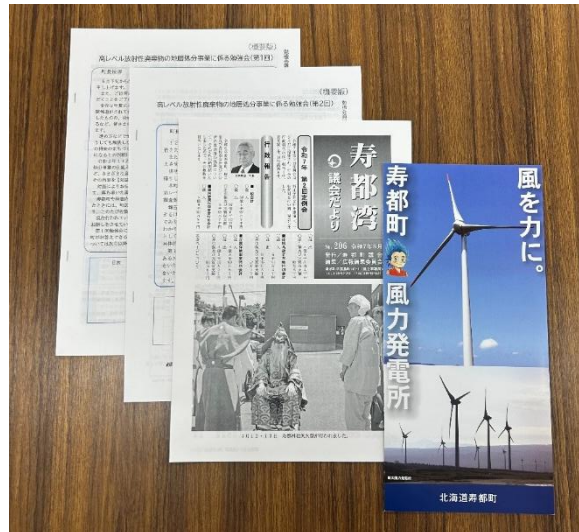


<右側から>

- ・小樽別院「参拝のしおり」
- ・北海道開教（北海道開教の歴史）」

<右手前より>

- ・風力発電事業パンフレット「風を力に」
- ・寿都町 議会だより 「寿都湾」
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分  
事業にかかる勉強会資料(第1回)
- ・高レベル放射性廃棄物の地層処分  
事業にかかる勉強会資料(第2回)



<右側より>

- ・寿都のまちと寺社の未来を考える会発行  
「寿都町御朱印めぐり」
- ・寿都観光物産協会発行 「寿都ぐるり旅」
- ・寿都町 産業振興課等発行  
「寿都町の自然・歴史・産業の  
ガイドブック」

寿都町にていただいた資料は事務局にて保管しております。

ご覧になりたい方は事務局までお申し付けください。

～ 第 12 回国内研修（北海道）グラフ ～



2025年10月6日  
小樽別院



2025年10月6日  
小樽別院にて  
本川輪番より  
小樽別院の沿革など  
お話を伺いました。

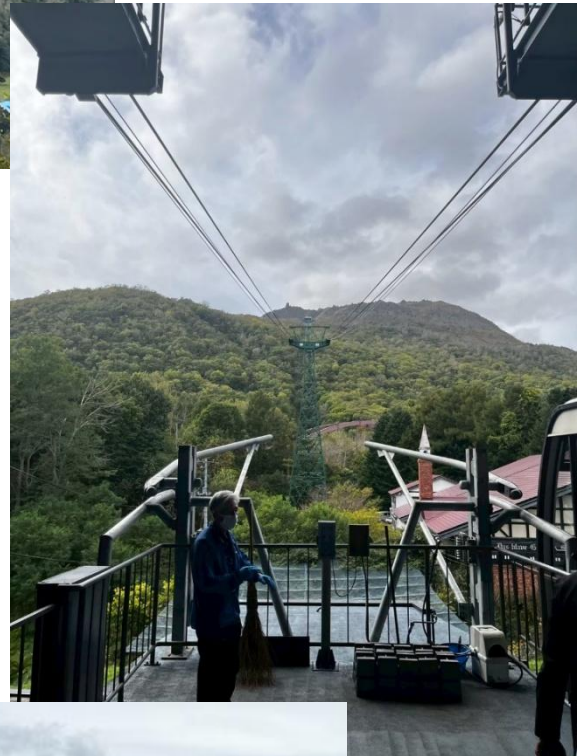


2025年10月7日  
寿都町総合庁舎へ



寿都町総合庁舎にて寿都町長よりお話をいただきました。





2025年10月7日  
昭和新山を見学し、活動を続ける  
大地の息吹を体感しました。





2025年10月7日  
洞爺湖遊覧船に乗船。



宿舎から洞爺湖を望む。

2025年10月8日  
民族共生商業空間  
ウポポイへ  
アイヌの歴史を学びました。



# 龍谷顕真会会員名簿

2026(令和8)年3月1日現在

No.	氏名	役職名	教区	組	寺号	職分	会役職
1	友山大信	寿都町議	北海道	後志	願乗寺	住職	
2	松山教宗	美唄市議	北海道	空知南	法王寺	住職	代表世話人
3	渡辺倫代	妹背牛町議	北海道	空知北	法忍寺	前坊守	
4	亀井義昭	元中川町長	北海道	上川北	極楽寺	住職	
5	常盤繁範	河合町議	東北	宮城	順忍寺	衆徒	
6	志茂田玲	練馬区議	東京	芝	光明寺	衆徒	
7	福井学	吉見町議	東京	埼玉	浄泉寺	住職	
8	大塚泰雄	元高島市議	滋賀	高島	通安寺	前住職	監査
9	山本隆俊	元茨木市議	大阪	茨木東	称名寺	住職	世話人
10	波多正文	尼崎市議	兵庫	阪神南	正光寺	住職	
11	谷川正秀	元尼崎市議	兵庫	阪神西	万徳寺	住職	世話人
12	竺川紹隆	元金城町議	山陰	浜田	浄光寺	前住職	世話人
13	大前寛乗	坂出市議	四州	飯山北	善光寺	住職	
14	岩本誠生	本山町議	四州	高知北	西光寺	住職	監査
15	田渕信量	室戸市議	四州	安芸	無量寺	住職	
16	上野寛治	広島県議	安芸	山県太田	萬福寺	副住職	
17	藤谷光信	元山口県議 (元参議院議員)	山口	岩国	教蓮寺	前住職	世話人
18	島田教明	山口県議	山口	防府	善正寺	住職	世話人
19	大來尚順	山口市議	山口	防府	超勝寺	住職	
20	井上隆純	元下関市議	山口	豊浦西	正音寺	住職	
21	松月よし子	糸島市議	福岡	志摩	海德寺	前坊守	世話人
22	高原隆則	元那珂川市議	福岡	那珂	教徳寺	住職	
23	佐藤哲紹	元湯布院町長	大分	由布院	長因寺	住職	
24	唯有幸明	国東市議	大分	国東中	妙光寺	住職	
25	佐々木一法	元五和町議	熊本	天草下	西明寺	住職	

## 会員活動報告

### 活動報告内容(現職会員)

- ①議会役職
- ②所属委員会および役職
- ③地域団体役職
- ④所属党派・役職
- ⑤取り組みについて
- ⑥その他

### 経歴者活動報告

- ①それぞれの立場で取り組まれている地域活動
- ②その他

### 福井 学 吉見町議 【東京教区・埼玉組・浄泉寺・住職】

- ①吉見町議
- ②議会運営委員、文教生活常任委員会副委員長、議会だより編集特別委員会委員長、吉見町下水道事業審議会
- ④無所属
- ⑤議員という立場に戸惑いを覚えながら、国政と県政の行く末を勉強し、町民の意見に耳を傾けてきました。町政が歩むべき道は町民の望む暮らしの先にあると考えて、今後もひとりひとりの声を町に届けていきたいと思います。決算審議をこれまでに参加し、来る3月議会で予算審議に加わりますので、一通りのことは経験したことになり、甘えは通じません。これまで同様、今後も平和と基本的人権の尊重、中央集権型システムから地方分権型システムへの転換と、参加型自治や市民による財政制御システムの確立を強く訴えてまいります。
- ⑥中東とウクライナの紛争は終息の気配をまったく見せず、米国大統領が交代したことも相まって、国際情勢の先行きは一層不透明となりました。国内の政治情勢は多党が乱立する様相を見せ始めており、一党が多数を独占しない、小さくて多様な意見がこだまする社会を反映した政治情勢になってきていると感じます。今後は平和と基本的人権を守りつつ、築地間真会などを通じて、小さくて多様な声を代弁していただきたいと思います。

## 事務局よりのお知らせ

### 会費納入のご依頼について

〈年会費 5,000円〉

会費未納の方は、事務局までご連絡の上、ご納入くださいますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

### 新会員勧誘のお願い

地方自治体の首長・議員に公選された宗派の僧侶の方で、本会に未加入の方をご存知でしたら、加入ご推奨いただくとともに、事務局までご連絡ください。

### 公職選挙宗門推薦について

今後、選挙の施行があり立候補を予定されている方は、宗門推薦をいたしますので事務局までご連絡ください。

### 2026(令和8)年度 龍谷顕真会 総会 開催について

期 日 : 2026(令和8)年5月20日(水)

会 場 : 伝道本部3階 大会議室

※詳細につきましては、後日お届けするご案内状にてお知らせいたします。

『龍谷顕真会会報』(第43号)2026(令和8)年3月発行

【編集・発行】 龍谷顕真会事務局

600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派宗務所 統合企画室 内

電話(075)371-5181(代)